



東北女子職業学校当時(明治期)の正門

三島学園報

創刊号

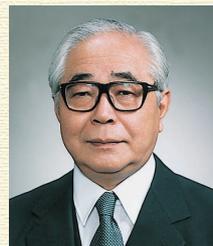
VOL.1
2003.12

- 学園報発刊にあたって
- 大学・家政学科に健康栄養学専攻発足
- 短期大学が短期大学部に名称変更(男女共学に)
- 高校に男女共学制導入
- 保育所の開設
- 養老孟司氏講演会～美を考える脳～



学校法人 三島学園

学園報発刊にあたって



学校法人 三島学園 理事長
池上 雄作

このたび新しく「学園報」を刊行することになった。三島学園の全体の動きをまとめて広報し、学園内にあつてこれが連帯感の増進のために有用であり、また、学外の多くの方々に読んでいただいて理解とご支援をいただくのに役立って欲しいと願っている。

今から3年前に本学園は創立100周年を迎え、盛大な記念式典が開催された。学園が誕生した1900年は自然科学の分野にとって重要な発見がなされた年で、プランクの量子仮説はその後の原子、電子などミクロの世界の科学を解明する端緒となり、20世紀前半には新しい科学体系が築き上げられ、それを基にした科学技術の進歩が人類の生活をも大きく変えることになった。三島学園はその進歩と変貌の歴史とともに歩んできた。本学の顕彰館や多くの記録誌を眺めると100年の変貌をよく読み取ることができ、これはわが国の世相の推移と符合している。

学園の歴史を振り返ると、大きな波を乗り越えて総合学園へと発展してきている。第二次大戦前は小学校卒業後の進学者が少ない時代で、女子職業学校は生活密着型の中等教育機関として市民に親しまれた学校であったが、1940年代の戦時に入って実業教育の本拠となり、戦後の学制改革時にはそれまで培われた地域社会での蓄積と信望が中学校、高等学校を、そして更に女子短期大学を生み出した。高等教育への参画であり、それが1958年の三島学園女子大学の発足へと結びついた。幼稚園も新設され、総合学園としての体制が確立されて高

度経済成長の波に乗った。ただ、戦後復興の波がその背景にあつたともいえるが、一般市民の教育や学問への熱心さとカルチャー志向の高揚が学園の発展の源になったと言うべきであろう。

いままた大きな波がやってくる。第二次大戦後の歴史的ともいえる進歩と生活感の変化、グローバリゼーション、そして情報社会、飽食、少子化といった社会用語に代表される時代相は国内を通じて学園のあり方に多彩な課題を突きつけている。本学園にとってもその課題は解いていかなければならない。

特徴の鮮明な学園像を築くことが求められている。時間のかかることであろうが、そんな学園像を目指して、当面いくつかの改革を進めている。大学家政学科に健康栄養学専攻を新設して資格取得の道を開き、高校に美術や保育のコースを新設するとともに男女共学制を取り入れて高校名を変更した。明年度は短大にも男女共学制を導入して校名を変更し、更に資格取得のコース新設を計画している。幼稚園に保育所を併設して向山キャンパスを充実させる計画も実現しつつある。

いろいろな波がやってくる。教育は人類の文化文明を維持し発展させる源泉となるものであり、若い人が健全に育ち、勉強に熱中し、学問・研究・制作に没頭するリズムを乱してはならない。学ぶ人たちが、一つのことを理解し、また身につけるために大変な努力をし、時間がかかることをいつも念頭におきながら、学園の運営に努めたいと思っている。

公開講座

みやぎ県民大学「大学開放講座」

8月26日(火)～29日(金)

主催／宮城県教育委員会・東北生活文化大学・三島学園女子短期大学
講師／須藤佑子(短期大学・教授)・佐藤靖子(同講師)

みやぎ県民大学「大学開放講座」は平成3年に創設されたものだが、本学では平成4年度よりこの講座に参加し、これまで計8回にわたり本学独自の講座を開設してきた。9回目の今年は、「生活の中の美～暮らしと染物(型染め)～」と題した講座(講義と実習)を短期大学の校舎内で行なった。その結果、受講者から「型染めの文化と技法を大変楽しく学ぶことができ、充実した4日間でした…」といった感想を得ることができた。



「高等教育ネットワーク・仙台」公開講座

11月8日(土)

主催／仙台市教育委員会・東北生活文化大学・三島学園女子短期大学
講師／三上秀夫(大学・講師)

仙台市教育委員会と仙台圏の大学でつくる「高等教育ネットワーク・仙台」公開講座は平成7年に設置されたものだが、本学では平成8年よりこの講座に参加し、今までに計7回の公開講座を実施してきた。8回目の今年は、「仙台の景観」を統一テーマにした新規講座「仙台学2003」に加わり、仙台市青葉区のせんだいメディアテークを会場に、本学の個性を生かした講座「仙台ショーウィンドーディスプレイの魅力について」(講義)と「身のまわりの素材(紙)からデザインを考える」(ワークショップ)を担当し、多くの市民より好評を得ることができた。



大学・家政学科に健康栄養学専攻発足

家政学科は昭和33年に三島学園女子大学の設置とともに発足し、その後昭和62年に男女共学制を導入、東北生活文化大学家政学科として被服学教育をはじめ幅広く実生活に直接役立つ教育のもとに生活のスペシャリストや家庭科教員の養成に務めてきた。

これらの実績と成果をふまえ、今年度から家政学科に管理栄養士養成を目的とした健康栄養学専攻(定員40名)を新設し、今までの家政学専攻(定員20名)とともに新たに

スタートすることになった。健康栄養学専攻は、生活習慣病その他の傷病者に対する「食」の面からのケアおよびそれらの疾病の予防に寄与する食生活改善を目指し、私たちが健康に生活できるための知識や技術を習得するところであり、まさに時代の要求に応じてつくられたものである。現在、管理栄養士を目指す新1年生は、早くも国家試験を意識した教育のもとで、社会で十分活躍できるための基礎学問や実験、実習に取り組んでいる。(大学・家政学部長 大庭 清)

短期大学が短期大学部に名称変更(男女共学に)

三島学園女子短期大学は平成16年度より男女共学の東北生活文化大学短期大学部として新たに出発することになった。昭和26年に設立された短期大学は、半世紀の間女子教育に専念し、当初より人間の基本的生活要素である衣・食・住を「生活文化」としてとらえ、科学的知識と実践力、さらに芸術性を身につけた教員をはじめとする多くの卒業生を世に送り出している。今後は日々複雑化する社会にあって男女ともに真に豊かな生活とは何かを探求して

いきたい。短期大学部は2年間という短期で社会人としての教養を身につけ、4年制大学への編入や就職を視野に、資格取得を希望する意欲ある学生を応援できるよう、常に社会の要求に応じたカリキュラムの編成を試みている。少人数教育のメリットを活かし、学生一人ひとりの個性を尊重し、短期大学部での学生生活が将来に向けて、有意義なものとなるように、教職員全員でサポートしていきたい。

(短期大学・生活文化学科長 須藤 佑子)

永年勤続者の表彰

表彰式が10月21日に学園100周年記念棟で行なわれ、大学・生活美術学科の林範親教授が表彰された。同教授は昭和48年東京芸術大学美術研究科漆芸専攻を修了し、その後日本楽器製造株式会社(現ヤマハ)を経て53年に本学園に奉職した。25年の永きに渡って学園発展のために尽力し、現在では大学、短大の教務部長及び生活美術学科長の要職に就いている。この間、工芸・デザインの専攻科目を担当し、研究・教育の各分野で多大な功績をあげている。特に木による立体造形作品は内外で高い評価を受け、各地の公立美術館に作品が収蔵され、日本国際美術展で佳作賞、宮城県芸術選奨受賞など数多くの賞を受賞している。教授は今回の表彰に際し「この25年間の成果を今後さらに研究、教育、学園の発展のために役立たせていけるよう努力していきたい」と述べている。今後ともより一層の活躍が期待される。



理事会の主なる議題

- 平成15年8月29日**(記念棟2階会議室)
 ◎保育所の新設について ◎短期大学の改革について
 ◎寄附行為変更について
 ①学校教育法の改正等に伴う寄附行為変更
 ②短期大学の名称変更に伴う寄附行為変更
- 平成15年10月18日**(記念棟2階会議室)
 ◎平成16年度高校・幼稚園の学納金の改定について
 ◎中長期計画について

人事異動

【退職】

平成15年7月12日	高校・教諭	山形 隆昭
平成15年9月30日	高校・教諭	大槻 雄一

【新任教職員の紹介】

高校・教諭(現職教育担当主事/担当教科・数学)
永澤 幸助
 東北大学教育学部卒業/宮城県黒川高等学校校長
 宮城県白石高等学校校長



高校に男女共学制導入

今、学校は男子生徒を迎えて、学習に部活にと活気にあふれている。

昭和23年に新制「三島学園女子高等学校」が設置されて以来、私立女子教育界に長く校名を発揚してきたが、社会の変貌に伴い本年度(平成15年4月)から男女共学制を導入した。校名も「東北生活文化大学高等学校」と改称し、普通科2コースと商業科2コースに男子生徒を迎え、共学校として新しい校史を刻んだのである。

振り返って新制高校設置当時の日本は貧乏であり、先進諸国に追いつくことに必死であった。今、この様に驚異

的な経済発展を成し遂げたものの、「人権」に関しては依然として後進諸国にも劣ると酷評を受けている。しかし、若者の世界では大人社会の陋習にとらわれず、性別に拘わりなく、ごく自然な教育環境や社会環境の中で、互いに助け合い尊重し合う生き方が着実に進展している。新世紀には男女が互いに平等に責任を分かち合い、能力を発揮できる共同参画社会が一層促進されるであろう。

本校もここに共学制がスタートした。男女が望ましい姿で切磋し、次世代を担うにふさわしい人材として成長することを確信している。
(高等学校・校長 鈴木 衛)

保育所の開設

近年の少子化の傾向、共働きの一般化などに見られる家庭形態の変容の中、児童の健全な成長を手助けするための環境の整備が重要な社会問題となっている状況にあって、平成12年「児童福祉法」の改正で幼稚園を設置する学校法人も保育所を設置することができることとなった。このような社会的ニーズに応えて平成16年4月から向山のますみ幼稚園に保育所を開設することになった。現在、幼稚

園の一部として使用している旧舎は老朽化と耐震性に問題があるため取り壊し、その跡地に約100坪程度の保育所を新築、調理室、調乳室、沐浴室など保育に必要な施設設備を設置し、平成16年2月に完成予定である。0才児から5才児までの乳幼児定員は60名で、名称は「ますみ保育園」となる予定である。

(保育所新設に係る準備委員会)

◎平成16年度 入試日程

【東北生活文化大学】

種別	学科	出願期間	試験日
推薦入試	家政学科	平成15年11月4日(火) ～ 11月17日(月)	平成15年11月21日(金)
	生活美術学科		
一般入試Ⅰ	家政学科 家政学専攻・ 健康栄養学専攻(A日程)	平成16年1月14日(水) ～ 1月29日(木)	家政 平成16年2月3日(火)
	生活美術学科		美術 平成16年2月3日(火) 4日(水)
一般入試Ⅱ	家政学科 健康栄養学専攻 (B日程)	平成16年2月20日(金) ～ 2月27日(金)	平成16年3月4日(木)

◎資料請求・問い合わせ先:入試事務室(TEL.022-272-7521)

【東北生活文化大学短期大学部】

種別	出願期間	試験日
AO入試	平成15年10月23日(木) ～ 11月4日(火)	平成15年11月8日(土)
推薦入試	平成15年11月4日(火) ～ 11月17日(月)	平成15年11月21日(金)
一般入試 (A日程)	平成16年1月14日(水) ～ 1月29日(木)	平成16年2月4日(水)
一般入試 (B日程)	平成16年2月20日(金) ～ 2月27日(金)	平成16年3月4日(木)

◎資料請求・問い合わせ先:入試事務室(TEL.022-272-7521)

【東北生活文化大学高等学校】

種別	出願期間	試験日
特待生推薦入試	平成15年12月15日(月) ～平成16年1月7日(水)	平成16年1月9日(金)
一般・美術推薦入試		
一般入試 専願入試	平成16年1月7日(水) ～ 1月21日(水)	平成16年2月2日(月)

◎資料請求・問い合わせ先:入試広報室(TEL.022-272-7522)

【ますみ幼稚園】

園児募集	
願書配布	10月1日(水)～10月31日(金)
願書受付	11月1日(土)

◎資料請求・問い合わせ先:ますみ幼稚園(TEL.022-225-5020)

三島学園公開講座・東北生活文化大学講演会

養老孟司氏「美を考える脳」



平成14年5月の大学・家政学科主催の芥川賞作家辺見庸氏による講演会「旅と食の風景—私が見てきたこと」に続き、大学・生活美術学科主催による、三島学園公開講座・東北生活文化大学講演会として、解剖学者で北里大学教授の養老孟司氏の講演会が平成15年6月20日(金)13時から15時まで開催された。

大学の門戸を広く社会に公開し、学内外の文化的、教育的な交流が目的の、学園の生涯学習事業の一環としての公開講座講演会でもあり、新聞、雑誌、ラジオ等で募集した結果、予定の一般聴講者数を上回る応募があった。

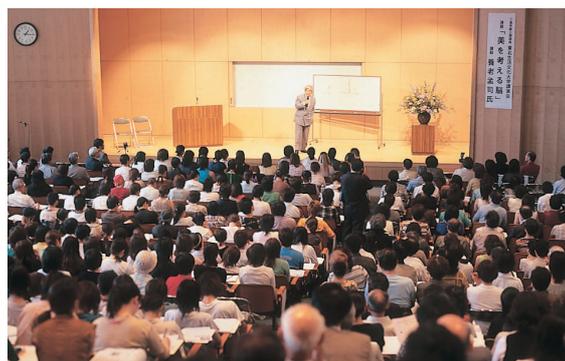
講演は、収容定員400名の三島学園百周年記念ホールに、生活美術学科学生170名、家政学科学生176名、短期大学生10名、教職員46名に一般聴講者138名で合計540名を数え、補助の椅子も用意したが、入りきれない聴講者にはホールロビーにモニターテレビを設置し対応するなど大盛況であった。

「美を考える脳」と題した講演は、美男美女とはの話から始まり、脳の働きや感性とは、そして個性とは何か、また表現と脳との関係、意識と言葉、心の有り方、学ぶ事とは何

かなど、学生、一般を対象として多岐に渡った。その中でも特に印象深かったのはアートに関する話だった。「アートは共通性、普遍性が高いものが生き残る。わかってもらえる事、これが重要で、心が共通でなければ理解はできないのである。人の心がわかるかどうか、それを教養というがその心は脳が支配する」といった内容であった。

解剖学者ならではの、また多くの著書を発表している文筆家としての含蓄のある例え、明晰なる言葉、ユーモアを交えた話しぶりは刺激的で興味深いものであった。

講演に続き、聴講者と養老氏との質疑応答が行なわれ、大変充実した講演会となった。



アーティスト・イン・レジデンス in 宇土マリーナに 佐藤淳一教授が参加

熊本県宇土市産出の馬門石を素材に公開制作を行なう「アーティスト・イン・レジデンス in 宇土マリーナ」に大学・生活美術学科の佐藤淳一教授が参加した。この事業は市内の各種団体代表などでつくる実行委員会(九谷新吾会長)の主催で、日本・ドイツ・アメリカの彫刻家3人を招聘し、7月21日~8月25日当地で行なわれた。佐藤教授は9トンを超える馬門石と向き合い、父

と子をモチーフに高さ3.5メートルの大作「朝陽のために」を制作。作品のコンセプトについては「自然石は地球のかけら。霊的なエネルギーがある。親子のつながりとともに大地や水、火、空などを人体の要素として表現した」と語った。同作品は、宇土マリーナ野外彫刻広場に設置展示されている。



東北現代工芸賞受賞

「第29回東北現代工芸美術展」(河北新報社、宮城県文化振興財団、現代工芸美術家協会東北会主催)一般の部で、普通科美術コース3年の永野春菜さんが、染織作品「朱」で高校生としては初の快挙となる「東北現代工芸賞」を堂々受賞した。本校の特色である「美育を中心とした情操教育」には、陶芸・染織・七宝の工芸科目が選択授業として設定されている。授業で培った力が種々のコンテストで成果をおさめてきた好例である。永野さんは美術系大学への進学も内定し、今後も創作活動を続けることになる。

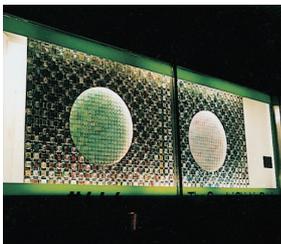


全国高等学校デザイン選手権大会決勝進出

「第10回全国高等学校デザイン選手権大会」(同委員会、山形県、山形市、東北芸工大主催)が開催された。全国から275チームが参加し、その中から審査を経た12チームが決勝に進出。厳しい審査に普通科美術コース3年の佐々木絵美さん、吉川美穂子さん、総合教養コースの3年赤間樹子さんのチームが見事勝ち残り、堂々入賞した。初出場ながら12チームを代表して選手宣誓という大役までこなし、東北生活文化大学高等学校を全国にアピールした。この大会のテーマでもある「明日の社会・明日の暮らしをデザインする」は生活文化の考えと共通するものがあり、学校教育の成果が現れた結果である。3人はそれぞれ芸術系大学への進学などの新たな目標にむかって頑張っている。

せんだいディスプレイデザインコンテスト金賞受賞

「せんだいディスプレイデザインコンテスト2003」(同委員会、仙台市主催)で、大学・版画ゼミナール制作の「再生ーリ・サイクルー」がアート部門の最高賞である金賞を受賞した。このディスプレイは使用済みのペットボトルを素材として使用し、機械仕掛けで中央部分を回転させることによって「どこまで行っても終わらない何度も再生するということ」を表現したものだ。期間内に、仙台信用金庫本店ショウウィンドーに展示され道行く人々の目を楽しませた。



宮城県高校総体馬場馬術種目優勝

普通科進学コース3年の小林亜希子さんが、「平成15年度宮城県高等学校総合体育大会」馬術競技の「馬場馬術種目」で見事優勝した。小林さんは小学4年から乗馬を始め、高校2年で競技に本格的に参加し、昨年11月の県新人大会でも「貸与馬障害飛越競技」で第1位になっており、また今年の東北大会では「少年団体飛越競技」の宮城県代表のメンバーとして活躍した。大学進学後も馬術競技は続けたいとのことである。



学生・生徒の活躍

大学

- 河北美術展
【入選】
齋藤正和(生活美術学科3年)
鈴木絃美(生活美術学科4年)
- 第1回ギャラリー五番街公募展
ー空想動物園ー
【あおば賞】
千葉宏美(生活美術学科3年)
【けやき賞】
櫻井尚子(生活美術学科4年)
- 2003中本誠司現代アート公募展
【カフェC7賞】
千葉宏美(生活美術学科3年)
- せんだいアートアニュアル2003
【明和電機賞】
菅野麻衣子(生活美術学科2年)

- 少林寺拳法クラブ
- 第40回仙台市民総合体育大会
【男子二段以上の部優良賞】
小野寺正芳(家政学科2年)
千葉勇輔(家政学科3年)
【女子初段の部優秀賞】
佐々木彩(生活美術学科2年)
村松美香(家政学科2年)
- 第9回北日本サイクル・ロードレース
【第5位】
下山和也(家政学科3年)
- 第18回南三陸サイクルロード
【第3位】
下山和也(家政学科3年)

高校

- ソフトボール部
●第17回宮城県ソフトボール総合選手権大会
高校の部
【女子準優勝】
●第30回仙台市高等学校女子ソフトボール
選手権大会
【女子第3位】
- バレーボール部
●第8回宮城県私立高等学校バレーボール
男子女子選手権大会
【女子準優勝】
●第13回東北私立高等学校バレーボール
男子女子選手権大会
【女子ベスト8】

- 卓球部
●第23回宮城県私立高等学校卓球選手権
春季大会
【女子団体第3位】
【女子ダブルス第3位】(佐々木紀江・佐藤望組)
- 第23回宮城県私立高等学校卓球選手権
秋季大会
【女子団体準優勝】
【女子ダブルス第3位】(佐々木紀江・佐藤望組)

- 美術部
●第21回泉・黒川地区高等学校美術展
【泉・黒川地区高等学校美術部会長賞】
本田千華(美術コース3年)
宇川さゆり(美術コース2年)
※本田さんは2年連続最高賞受賞
【宮城県高等学校美育研究会会長賞】
佐々木絵美(美術コース3年)

- 写真部
●宮城県高校文化連盟写真専門部主催
第2回夏季高校写真コンテスト
【優秀賞】岩淵真美

東北生活文化大学

家政学科

家政学科は今年度、健康栄養学専攻関係担当の片山正文教授と堅田有紀子助手、相澤菜津子副手の新しいスタッフを迎え、また家政学専攻と健康栄養学専攻に新入生80名を迎えて、時代のニーズに対応した高度な専門教育を新たにスタートした。9月には2年次学生と編入学生は家政特別講義で、山陽・関西方面に明石被服興業、うすくち龍野醤油資料館、神戸ファッション美術館等を見学した。実地見聞で幅広く様々なことに触れ、質の高い研修を行った。3年次学生はこれから始まる厳しい就職活動に向けて、家政専門の知識を深めるとともに、時代の激しい変化に対応すべく技術、資格の取得などに真摯な態度で臨んでいる。4年次学生は各分野で、家政学関連の研究に積極的に取り組み、課題研究中間審査を終え、論文作成に向けてそれぞれの視点からテーマを深く追究している。家政学科は昨年に続き、栄養士養成関連設備の拡充をするともに、年次計画でアパレルCADシステムを導入し、被服学教育・研究面で最新の学習が可能になった。

生活美術学科

例年がない冷夏であった今年、社会状況も今だ不景気という「冷たさ」からは抜け出せない状況である。そのような中、本年度、生活美術学科ではいくつかの動きがあった。まず、美術理論関係の担当教員として杉林英彦講師が新しく着任したことである。このことによって、より充実した学生の研究・学習支援がはかっているであろう。また、東北生活文化大学高等学校との連携事業として「高校生のための美術・夏期講座」(7月22日～31日)を開催した。多くの高校生が参加し、熱のこもった実技講習が行なわれ、生活美術学科として専門性の一端をいかした事業を展開することができた。11月8日には、三上秀夫講師が仙台市教育委員会が主催する平成15年度「高等教育ネットワーク・仙台」において「講座仙台学2003～景観形成の過去・現在・未来～」を担当した。講義とワークショップの二部構成で行なわれ、多くの参加者が集まり大盛況であった。

東北生活文化大学高等学校

「男女共同参画社会」にふさわしく、今年度から男女共学制を導入し、校名も「東北生活文化大学高等学校」と改称。制服も一新し、男子94名を含む274名の新入生を迎え、新しい伝統づくり、校風づくりに向かってスタートを切った。始業式には新校名、生徒会旗・新部旗の樹立を行なった。新学期当初、校舎内には今までになかった男子生徒の姿と大きい声に戸惑いと違和感があったが、時間が経つにつれて薄れ、男女別なく先輩・後輩が協力し合いながら睦まじく活動する姿も見られ、活気ある学校生活が繰り広げられている。また、新入生から新高等学校学習指導要領が施行され「生きる力」を育むことを目指し、「総合的な学習の時間」が新設。新たに「情報」の教科が必修となるなど創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開している。

次に平成15年度前半の高等学校の主な行事と活動状況について振り返ってみる。球技大会、体育祭は男子が入った初めての大会となり、綱引き競技では教員チームと男子生徒が優勝を争ったが、男子生徒の力に圧倒されるなど若人らしい活気に満ちた祭典となった。第52回宮城県高校総体は6月7日～9日の3日間、県内各会場で行なわれた。男子生徒もバスケットボールなど4種目に出場。1年生チームながら大いに健闘した。成績は個人参加の馬術競技で優勝。バドミントン等各種目も上位に入る健闘をした。他に女子バレーボールは4年連続全国私学大会へ出場する。文化部では美術部が第10回全国高校デザインコンクール決勝大会に進出。泉・黒川地区美術展では出展数、受賞者数の半数以上が我校で占められるなど入選賞が相次ぐ活躍をしている。今年から「生文祭」と改められた学園祭も保護者、卒業生、地域の方々の来校者が多く、内容も豊かで日頃の部活動の充実ぶりを感じさせられた。同時に野外ステージ、屋台ロード、保護者や地域のコーナー展も設けられ、展示発表に花を添えていただいた。第4回目を迎えた中学校美術コンクールも盛會裡に終了することができた。

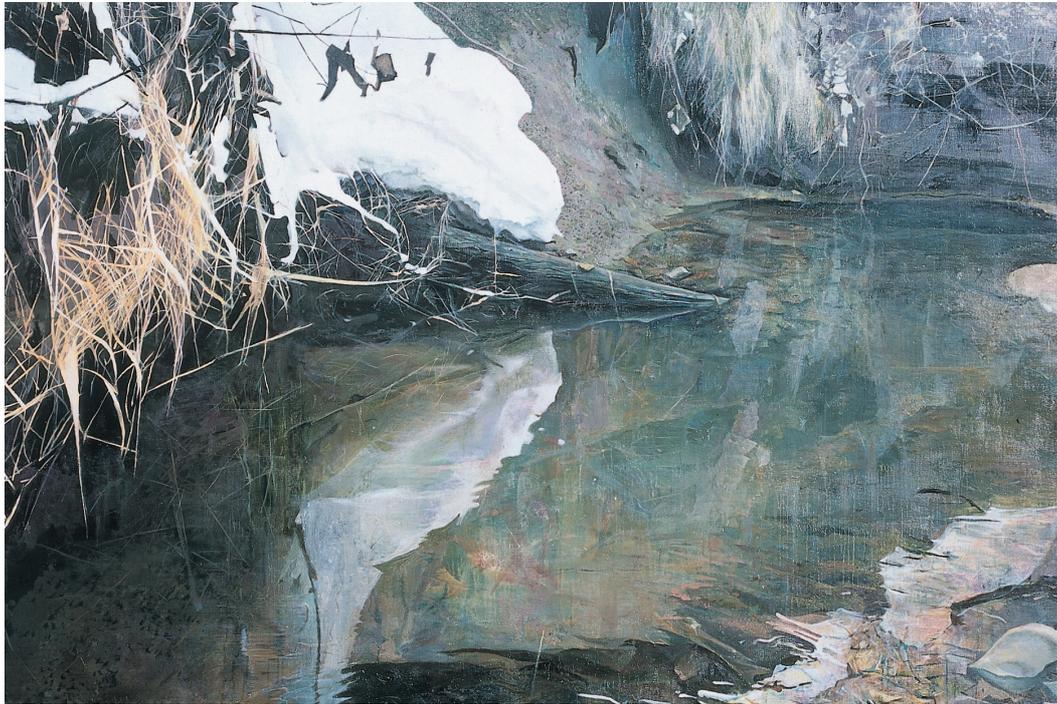
最後に、今年4月本校に赴任された山形隆昭先生が7月に逝去された。改革がこれからという時期に大変悲しいことであった。山形先生のご冥福をお祈りしたい。また、7月26日発生した宮城県北部地震で鳴瀬、矢本、南郷、河南各町から通学する在校生の中には家屋倒壊といった被害に遭われた方もおられるが、一日も早い復興を願っている。

三島学園女子短期大学

平成15年度、短期大学は生活文化学科という学科名がスタートしてから3年目を迎えた。全国的には短期大学の閉鎖が相次ぐ中、本学ではさらなる教育の充実と短期大学のニーズに応える改革が強く望まれている。その方策として来年度から「東北生活文化大学短期大学部」と名称変更し、男女共学化されることが決定した。これにとどまらず、社会へ貢献できる未来ある短大の将来像を提示することが今後大きな課題である。このような状況下、本年度もトータルライフコース、マルチデザインコースに新入生を迎え教育活動を始められたことは大きな喜びである。また、今年は仙台市北部を中心とした大きな地震が相次いだ。大きな人身事故が無かったことは不幸中の幸いであったが、短大棟の建物の一部に大きなひび割れが生じるなど、学校生活の中でも自然災害の脅威を十分認識すべきであることを改めて思い知ることとなった。その後、夏休み期間などを利用して外壁等の補修工事が行なわれ、結果的に短大棟の外壁について景観が改善された。教育活動を目を移すと、5名の教育実習が今年も終了し、7月15日に教育実習報告会が行なわれた。また、情報処理士(全国大学実務教育協会)の称号認定機関となり約1年が経過し、学生が目標を持って授業を選択する手助けになってきている。このことは、統計学など従来受講者が皆無に近かった科目を大多数の学生が受講するなどのことからうかがい知ることができる。一般常識の会得や講義の補助などを目的とする特別講義も軌道にのり、その意義が理解されつつある。短大のニーズとは何かという問いへの一つのヒントになりうるのかもしれない。

ますみ幼稚園

まず6月1日の保育参観の報告をする。今年も、早坂貞彦先生指導による「凧作り」は子供たちに好評で親子共同の制作過程が良かった。雨天のため室内での凧揚げだったが、軽くフワッと揚がると笑みが浮かび満足顔の様子だった。続いて7月12日には、父母の会との共催で「夏祭りバザー」が行われた。ゆかたやじんべい姿になり、園庭のやぐらを囲んで歌ったり、親子で踊ったりした。魚釣りをしたり、わたあめやポップコーンを食べたり、ジュースを飲んで楽しむ夏の夕涼み会であった。また、地域の皆様にも開放したバザー等は大好評だった。夏休み直後の7月22日には「お泊り保育」(年長組のみ)が行われた。親と離れて友達と幼稚園に泊まることは子供にとっては素晴らしい体験の一つであった。夕食時には園内で栽培した採れたての野菜を包丁で切る体験をした。また、ハンカチの「玉ネギ染め」も好評。夜にはキャンプファイヤー、花火遊びと続き、お化け屋敷では最高潮で大興奮だった。秋はやっぱり運動会が主役だ。9月28日は好天に恵まれ、親子で楽しく過ごした。好評だったのは沖縄民謡風の踊りで軽快なテンポと独特なリズムが子ども達の心を引きつけ、笑顔がいっぱいであった。お父さん達はビデオやデジカメ撮影に夢中になり拍手を忘れたのは少し残念だった。食欲の秋にふさわしい行事は10月17日の相の釜集落での「いもほり遠足」だ。今年はあいにく低温と日照不足のため、サツマイモも不作で、「うわー大きいー」の歓声はなく、少し盛りあがり欠けた。いもほりの後、仙台空港脇の公園に場所を移し、お昼はお母さんの手作り愛情弁当に大満足の様子であった。



「流れⅡ」(F120号油彩)
大学・生活美術学科2年 竹内 功

大学・生活美術学科の学内コンクールに於いて最優秀賞を受賞した作品である。何気ない身近な風景の一コマを丁寧な筆致で克明に描き出している。作者は「普段見過ごされてしまいそうな場所を感じるある種の寂しさを表現したかった」と述べている。

編集後記

学園も創立100周年を過ぎ新たな改革が着実に進む中、記念すべき学園報創刊に携わることができ、編集担当者一同大変幸せに思っている。今まで様々な形で広報物が刊行されたが、学園全体が一体となってまとまった定期広報誌を刊行するのは今回が初めてである。内容的にはまだまだ不十分な所があり、満足がいくものではないが今後更に鋭意検討を重ね、より良いものにしていきたい。

(三島学園広報委員会)

学校法人 三島学園 学園報 平成15年12月1日発行 三島学園広報委員会編集

東北生活文化大学／三島学園女子短期大学／東北生活文化大学高等学校／ますみ幼稚園

III 学校法人 三島学園 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18 TEL.022-272-7511(代) FAX.022-272-7516

[URL] <http://www.mishima.ac.jp> [E-mail] hojin@mishima.ac.jp



古紙配合率100% 白色度70%
再生紙を使用しています



環境に優しい大豆油
インキを使用しています

印刷／笹氣出版印刷株式会社